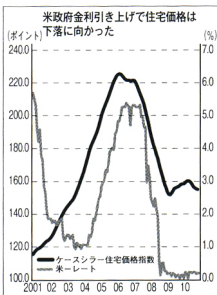


# 読んだら使える 日経新聞の読み方



◇本書は、これから日経新聞を読み始めるようとする人を想定しています。中には「すでに呼んでいるのだけれども、一度初心に帰って、より有効な読み方についてのヒントを得たい」という人をも対象にしています。

◇「日経新聞の読み方」と言

◇さて、新聞とは毎日百本のドラマが毎日のように上映さ

## 日経新聞は

五感をフルに使って読め！

これまででなかった情報の読み方と活かし方をついに公開！

うよりは「新聞などの情報」一般」と仲良くなるためのいろいろなヒントをまず差し上げることからスタートすること

角川総一 著

◇しかもそれらのうちには毎日のように連続しており、私たちを魅了する！  
1日に百本以上のドラマが演じられる  
新聞劇場  
しばらく休んでいたが、急遽放映されるドラマもある。だからこそ面白い！さて、明日からまたどのようなドラマが始まるか楽しみなものだ。

ているのかも  
しれないので  
す。しかも、この劇場で上映されているドラマは1日当たり少なくとも百本以上。



はじめに

「日経新聞くらい目を通しておかなければ」。この本はこんな言葉にある種の劣等感、いささか大仰に言うところの恐怖感を抱いている人のための本です。あるいは「もうちょっと上手な読み方ってないのかな」と日ごろ思っている方。さらには「いろんな日経の読み方本には、いかにもそれらしいことが書いてあるんだけど、実際にはとても実行できなかったり、抽象的であつたりして役に立たなかった」と嘆いておられる方。そんな多くの方に向けて書いてみました。

特に留意したことは徹底的に実用的レベルで説明すること。そのためのいろいろなヒント、すぐにも実行できる実践的な方法を多く詳解してあります。

「今日の日経新聞の1面トップは円売りの協調介入だったね」「昨日から日経1面の肩で始まった連載でホンダやブリヂストンの投資が急増すると言っているね」「日経でサウジが増産すると伝えているけど、これで原油価格は少し下がるんだろうかね」。

世のビジネス社会では、こんな話題から人々の会話が始まる風景をよく見かけます。これは、ビジネスマンにとっての最低限の情報インフラ（基礎的条件）。誰もがお互いに、日経新聞の主要記事にはざっとでもいいから目を通しては、ということが無言の前提になっているのです。

あるいは私ことになりませんが、今からもう35年も前にその当時日本の証券界のど真ん中・兜町にあった債券・金融専門新聞の記者として働き始めたころのお話です。取材先の人との話はその日の日経新聞の記事についての感想を述べることから始めていたことを懐かしく思い出します。「いや、昨日は下げたね」（債券相場が下がった。利回りは上がったことを言っているのです）。「この時期に農林系統が買いに入るとは思っていなかったな」つまり、その日の日経新聞を読んでいなければお話にならないかったのです。それまで一度も日経新聞を見たことがなかった私にとって、それは軽い驚きでした。毎日出社前に、日経新聞をある程度読んでいることが最低限の条件だったことに気づいたのです。現在でも多くの職場で似たような事情にあります。多分、あなたもそうではありませんか。私はいわば40年近く前の私に読んでもらいたいと思いがちこの本を書きました。

「日経新聞くらい読まなければ」。おそらく多くのビジネスマンは、こんな風に言われた経験があると思います。しかし、そんな風に先輩風を吹かしてお説教をする上司も、社会人になったばかりのころにはそう言われたに違いなのです。かくいう私ももちろんその例にもれません。そして、今私は遅れてきた若い人たちに「日経新聞くらい読んでおかなければね」と折に触れ言います。これはほとんど、老人が若いものを捕まえて「今の若い者は」と言うのと基本的に同じ構造です。因果はめぐるのです。

さて、「日経新聞くらい」という言葉はともすれば誤解されがちです。なぜか。普通「〇〇くらい」と

いった場合には、レベルがそれほど高くない、というニュアンスを含みます。「それくらいのことは分かんなくっちゃ」というわけです。しかし、実際にはこの言葉を聞く側に立つ若い方々は、「だって日経新聞って結構難しい（難しそう）じゃないか」と思っているに違いないのです。30数年前の私がそうでした。多分ここで、こう思った総じて若い人々は、二重の意味で、不安を抱えます。「本来はそれほどレベルが高いんじゃないけど、私にとってはとてもとても……」というようにです。そう。ここで劣等感が二重になってあなたを微妙に苦しめるのです。

しかし、「読まねばならぬ」。でもどうせ読むなら楽しく、ムダを省いて、より効率的に取り組みたいものです。何しろ、日経新聞とは社会人をやっている限り、良き道連れであり続けるのですから。

出来るだけ仲良く付き合っていきたい。そのためには相手を知らねばなりません。そしてその付き合い方にはいろいろな方法があるのです。

以下、この本では私が水先案内人として、ほんのわずかだけ遅れてきた日経初心者の方々に、出来るだけ具体的な知恵をお話していこうと思います。あなただけの付き合い方を探し出すようなつもりで読み進んでいただければうれしく思います。

資料整理のお手伝いなどで、八面六臂の大活躍をしてくださった明日香出版社の金本智恵さん、滝口美香さん。どうもありがとう。

## 第1章 新聞を読むための基本作法9か条教えます！

1. 新聞は脚本のない無期限ドラマ上映館である 12
2. 1日に100本以上のドラマが演じられる新聞劇場 15
3. 新聞を読むことはあなたの生活にどんな位置を占めるか 17
4. 新聞は「いかに手抜きして読むか」に尽きる！ 20
5. 「ケツから切れ」という職工さんの罵声を何度浴びたか！ 23
6. 新聞には「13版」「14版」ってあるけどどういう意味？ 26
7. 情報通は「入り」からではなく「出」から始める 28
8. あなたは巨大な情報回路の1つのノード（結節点）だ 32
9. 息を吐けば自然に吸える、のが東洋的な身体観である 35

## 第2章 いよいよ日経新聞の読み方・実践編

1. 三大克服テーマは「難しい用語」「記事の選択」「経済数字に慣れる」 38
2. 日経新聞は難しいものである 40
3. 日経語Ⅱ 外国語、である 42
4. 私が音読にこだわるこれだけの理由 45
5. 私はこうして日経語が使えるようになった 47
6. 各面のトップ記事のリードと図表入り記事は要注目！ 50
7. テーマを決めて1日Ⅱ 30分×1ヵ月読む 54

8. 出社前に読む箇所と夜または週末に読む記事がある 58
9. インターバル走法ならぬインターバル読みのススメ 62
10. 日経はビジネスの視点から報じるってどんな意味？ 64
11. 消費者の視点と供給者の視点との差 67
12. 意外な盲点・日経のビジネス書・雑誌広告を積極利用する 70
13. 経済数字を身近なものにするための3つのテクニク 73
14. データは流れで読むのが鉄則 76
15. 新聞だけと付き合っているのは新聞は読めるようにならない 79
16. ロイターを読めば日経記事がより深く分かる 82
17. 携帯も積極的に利用しよう 85
18. 日経新聞情報に触発され、具体的アクションを起こす方法 90

## 第3章 日経新聞はどのように編集されている！

1. 日経新聞の各面はこんなように読んでいこう 94
- ◆ 日経新聞の構成 96
2. 「1面」何はともあれ日経新聞の顔 98
3. 「総合面」コンセプトは「ニュースが分かる」「景気が分かる」 102
4. 「経済面」政策、景気、金融の重要記事がオンパレード 104
5. 「国際面」海外発の視点で政治経済を報道 108
6. 「企業面」企業動向からミクロ経済にアプローチ 110
- ◆ 経済数字に慣れるためのレッスン 112

7. 『投資・財務』会社の数字を手がかりに企業活動に迫る	118
☆ 投資・財務面を読みこなすための基本用語一覧	122
8. 『マーケット総合面』株、為替、金利から経済へアプローチ	124
☆ マーケット総合面を読みこなすための用語一覧	136
9. 『証券面』ここからは相場表のオンパレード	140
10. 『商品面』明治9年、日経新聞はここからスタートした	146
11. 『経済教室』これを切り貼りしてオリジナル教科書を作る	150
12. 『消費面』新製品面』消費者の視点に立った紙面づくりが特徴	152
13. 『地域経済』・『文化面』などみる日経の独自性	154
14. 『夕刊1面』発表もの、海外記事が多いのが特徴	156
15. 『マーケット総合面』海外発のマーケット情報を中心に編集	158
16. 『らいふプラス』消費者、生活者の視点で編集	164
17. 『景気指標』内外の景気、マーケット関連データが大集合	166
18. 『景気指標』この表上で各データ間の関係をなぞってみる	168

## 第4章 さらに日経に慣れ親しむための小ネタ集

1. キリヌークで目指す記事を切り取る	186
2. ツイッター、Facebookで知人、友人に注目記事を送る	190
3. 3色ボールペンを使って線を引きながら読む	192
4. A7ノートを脇に置いて日経新聞を読む	196
5. 新聞は時代の断面(縦軸)。横軸を作ってみよう	198

6. コラムなどを切り抜いて自家製本を作る楽しみを味わってみないか	202
7. 使いである「MONDAY NIKKEI」の週間予定表	204
8. メルマガでニュースの自動配信を受ける	204
9. 有識者がどんな記事に注目しているかを無料メルマガで知る	208

## 第5章 日経新聞を読みこなす最重要12のトピックス

1. インフレ、デフレ期には金利、お金の価値はどうなる?	213
2. 為替相場がほとんど動かない国があるって本当?	217
3. 100年に一度の金融危機はこうして起こった(その1)	221
4. 100年に一度の金融危機はこうして起こった(その2)	225
5. 日本を抜き、世界第二の経済大国に躍り出た中国	229
6. これが米中間での政治、経済の力学だ	234
7. 世界経済の二極化構造と新興国のインフレが進行	238
8. 欧州の財政窮迫問題が急速に浮上	242
9. 抜本的な見直しを迫られる企業のグローバル戦略	246
10. 中東の民主化運動激化をどう見るか	250
11. 経済成長を基本から規定する人口問題	254
12. 地球環境問題をどういう視点から読むか	259

### コラム

「日経新聞の特徴・歴史①」	189
「日経新聞の特徴・歴史②」	165
「日経新聞の特徴・歴史③」	107
「自分の財布を世界経済にリンクさせる」	101

# 第1章

## 新聞を読むための 基本作法 9 力条教えます！

新聞とは毎日 1000

本のドラマが毎日によ  
に上映されている劇場の  
ようなもの。言わば脚本  
のないドラマ上映館なの  
です。入場すれば予想も  
しなかったドラマが展開  
されているのかもしれない  
のです。しかも、この

劇場で上映されているド

ラマは1日当たり少なく  
とも100本以上。

それらのなかには毎日  
のように連続しているド  
ラマ、しばらく休んでい  
たが、急遽放映されてい  
るドラマ。今まで見たこ  
とのなかった新しいドラ

マが突如として現れるこ  
ともあります。チュニジ

アの政変劇、中国でレア  
アースの輸出制限ドラマ  
が上映されたりします。  
かと思うと、その次の日  
には原油価格が100  
ドル台に乗ったのだ、米  
国の雇用者が前月比で減

少してニューヨーク株が  
急落した、なんてドラ  
マが出てきます。どのド  
ラマも脚本がない。つま  
り、今まで登場しなかつ  
た人物が新たに現れたり  
する。あるいは舞台・背  
景が一変したりする。だ  
からこそ面白い。



## 1. 新聞は脚本のない無期限ドラマ上映館である

本書は、これから日経新聞を読み始めようとする人を想定しています。もちろんこの中には「すでに3年、5年と読んでいるのだけど、もう一度初心に帰って、より有効な読み方についてのヒントを得たい」という人も含みます。

そこでこの章では、まず「日経新聞の読み方」というよりは「新聞などの情報一般」と仲良くなるためのいろいろなヒントを差し上げることからスタートすることになります。

さて、新聞とは毎日100本のドラマが毎日のように上映されている劇場のようなもの。言わば脚本のないドラマ上映館なのです。入場すれば予想もしなかったドラマが展開されているのかもしれないのです。しかも、この劇場で上映されているドラマは1日当たり少なくとも100本以上。

それらのなかには毎日のように連続しているドラマ、しばらく休んでいたが、急遽放映されているドラマ。今まで見たことのなかった新しいドラマが突如として現れることもあります。

チュニジアの政変劇、中国でのレアアースの輸出制限ドラマが上映されたりします。かと思うと、その次の日には原油価格が100ドル台に乗ったのだの、米国の雇用者が前月比で減少してニューヨーク株が急落した、なんてドラマが出てきます。

どのドラマも脚本がない。つまり、今まで登場しなかった人物が新たに現れたりする。あるいは舞台・背景が一変したりする。だからこそ面白い。

あるいはちょっと慣れてくると、事前にちよつとした期待と予想を抱いて入場することもあるでしょう。

「昨日まで続いていた米国株式の上昇は今日も続いているのか？ 市場をめぐる背景はどのように変化してきているのかな？」

「米国、新興国ともに景気がまずまず順調に伸びているようだけど、これでそろそろヨタが今期の業績見通しを引き上げるのではないかな。今日はそんなドラマが見られないかな？」

「TTPP（環太平洋包括的貿易交渉）で日本は米国と予備交渉に入っているはずだが、その後の展開はどうなっているのか？ 特に農業分野での下交渉はどうなっているか？」

「株価の下落とともに長期金利も下がってきていたが、このまま下があれば住宅ローン金利も下がるはずだが、果たしてその後はどうなっているのか？ その背景を含めてそろそ

る報じられていいと思うんだが？」

「先月までは牛井店が競い合つて期限付きで値下げ戦術に打って出ていた。そろそろ期限が切れるけど、その後の展開がどうなったのかな？」

そんな期待を抱いて劇場に入ります。そうするとたとえば1週間前まで順調に伸びていると思っていた自分が勤める会社の株価が円高とともに急落。急遽、資材の調達先を変更するとともに、中国からベトナムに生産拠点の一部を移転するといったドラマが展開されます。あるいは、発表されたGDPの数値が、大方の予想を大きく裏切るマイナスになった、といったドラマが上演されていたりする。

さらには、ブラジルが海外からの債券取得を目的とした資本流入に課税するというドラマが唐突に始まることもあります。また、これまで落ちて着いていた原油価格が再び上昇、その裏には中国の成長率が予想以上に堅調であるデータが発表されたため、といった数ヵ月前まで展開されていたドラマがよみがえることも珍しいことはありません。

そう。新聞紙上で展開されている1日に100本を優に越える記事は、ずっと昔から不連続的に演じられ続けてきたドラマのワンシーンあるいは、その後のちょっとした展開を示している5分、10分のドラマとでも言うべきものだったのです。

## 2. 1日に100本以上のドラマが演じられる新聞劇場

ちなみに、以上で言う「100本を越える」というのはでたらめな数字ではありません。朝刊の場合、32ページから40ページ程度。1ページあたり平均して記事は8本くらい。ところで40ページのうち半分は広告（広告は全体の50%未満であることがルール）。つまり20面分。ところが日経新聞ではこのうち3割くらいは株式欄などの決まった数表で占められ、つまり、見出しが付いた記事というのは、100本くらいなのです。

さて、新聞の読者というのは大昔から連綿と続いてきているこの連続ドラマ劇場に、途中から観客として参加し始めることになります。ドラマの最初から見続けてきた人は一人も居ません。だれもが途中参加なのです。

ただし、このドラマは一般のテレビなどで報じられている主に娯楽のための連続ドラマとはちょっと趣を異にしています。同じ新聞でもスポーツ、芸能新聞は限りなくテレビの連続ドラマに近い性格を持っています。面白ければそれでおしまい。しかし、特に日本経済新聞紙上で展開されているドラマはこうした娯楽系のドラマとは異なります。



それは、社会人として毎日のように仕事をしていくうえで欠かせない情報がちりばめられていること。ドラマを見ていなかったあげく、「え、政府がそんな政策を検討し始めているなんて知らなかった」「え、ライバルのR社がベトナムに進出したって寝耳に水だよ」では、明らかに仕事に支障が生じることが珍しくないのです。

つまり、娯楽としてのドラマのようになんとなく見て、楽しんで終わり、ではないのです。そのドラマで展開された事柄をどのように自分のテリトリーに取り込んで、それを有益に生かしていけるかが、重要なのです。

100本のドラマのどれを選択するか？どのドラマから見ていくか？そのドラマのどこから見るか？これは自由です。どこで退席するかも自由、早送りも巻き戻しも自由自在。自由だということは、選択できるということであり、「選択できる」は「選択しなければならぬ」です。ということは、どのようによく選択できるかが問われるのです。

というわけで、脚本のないドラマが毎日のように上演されている日経新聞を上手に楽しむとともに、それを仕事にあるいはより豊かな生活に生かすためにはどうすればいいか。これからゆつくりとお話していきましょう。

### 3. 新聞を読むことはあなたの生活にどんな位置を占めるか

日経新聞を読むこと自体が目的なのではない。そこで取り入れた情報を何らかの形で生かして初めてなんぼの話です。つまりその情報を現実生活の場（多くの場合仕事の現場）で再生して初めて意味を持つことが多いのです。いやこれは、あらゆる実用情報に共通することかもしれませんね。

サボテンの育て方、犬のしつけの仕方、編み物の仕方。何でもいいのですが、これを読んで「ああ、いろんなことを知ったわ」でおしまいにしてしまったんでは、記事が泣きます。実際にサボテンを育てる過程で、あるいは犬のしつけをする時にそれを利用して初めて、その情報は生きるのですから。多くの経済情報も同じです。

さて、こうした観点から日経新聞を読むという行為を私たち社会人の活動全体の中でどのように位置付ければいいか。いささか古い言い回しなのですが、私は「読み書きそろばん」というフレーズがとても役立つのではないかと考えるのです。言うまでもなく、「読み書きそろばん」とは江戸時代における庶民が、最低限の社会生活を送るために必須の能

力について述べたものです。と同時に、最低限この程度の教育は受けておく必要がある、と考えたものですね。

さて、では日経新聞を読むことを生活全体の場合から考える時に、なぜこのフレーズが有益なのか。私は次のように考えるのです。

「読む」。これはいいですね。そして「書く」はそのうち記憶に留めておいていいこと、覚えておかねばならないことを記録すること。学生時代に板書された内容をノートに書き留める、がこれに該当します。

さらに「そろばん」。これは社会生活をするうえで最低限の数的な感覚を持っている必要があることを示す言葉です。そういえば、日経新聞に代表される経済記事にはやたらに数値が多い。

この点については後で詳しく述べますが、経済の動きをよりよく知るためには、量的な把握が必要です。「国債の発行額が多額に上る」という認識のレベルではなく、「44兆円である」「一般会計予算92兆円の半分近くである」「40兆円の税収を上回る」と、この程度の数的な感覚を持っていなければ、わが国における国債にまつわる問題の本質には触れるこ

とはできません。

さて、ここまで述べてきて、しかし、私は以上の「読み書きそろばん」には徹底的に足りない要素があると思うのです。さて？ それは「話す」「聞く」の2つです。考えてみれば当然ですね。知ったことを話さなければ他者とコミュニケーションがとれません。あるいは相手から「聞く」という技術はとても大事です。実際、私たちが経済情報を読んでそれを役に立たせるのは多くの場合、他者にそれを伝え、あるいはそれにまつわる情報を他者から聞く、というコミュニケーションの現場においてです。

もう少し言えば、話すとは単に「伝える」だけではなく「自分の意見を言う」「相手に対する要求を表現する」ということも含まれる。さらには「聞く」は単に他者から事実を知らせてもらうだけではなく「意見を聞く」「要求を聞く」「違った見方を知る」ということも含まれます。

そう、このように考えれば日経新聞を読むためには、日経新聞を読むコツ、技術だけを伝えるのではなく、それをどう書き留めていくのか、経済数字にまつわるテーマはどう理解すればいいのか、それを他者に伝えるにはどんな方法が有効なのか、についても触れざるをえません。以下、順を追って（でも時々寄り道しながら）このテーマについてお話ししていくことにしましょう。

ビジネス書&語学書

# 著者の本音!

立ち読みデータはここまでです。  
続きはぜひ、書店さんでお求めください。

- ・アマゾンでのお求めは、[こちら!](#)
- ・紀伊國屋書店でのお求めは、[こちら!](#)
- ・e-hon でのお求めは、[こちら!](#)
- ・楽天ブックスでのお求めは、[こちら!](#)
- ・本やタウンでのお求めは、[こちら!](#)

突撃  
インタビュー



 明日香出版社